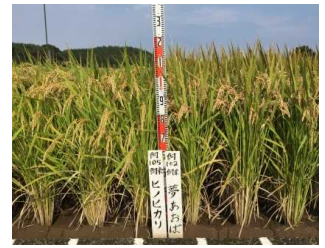


多収性専用品種で飼料用米の単収向上を目指します

【研究のポイント】

大分県における飼料用米は、その利用が定着し、生産量・需要量ともに増加していますが、単収の低さが課題となっています。  
 実需者の求める需要量を確実に生産するとともに、数量払い制度に対応し、農家所得の確保を図るため、飼料用米の単収向上が求められます。  
 そこで、水田農業グループでは、大分県に適する飼料用米の品種として、熟期の異なる2品種「夢あおば」及び「クサホナミ」を選定しました。



大分県の気候条件に適し、収量が多く、栽培しやすい特性を持つ品種として、「夢あおば」、「クサホナミ」を選定しました。

「夢あおば」 平坦地～中山間地向けであり、成熟期は平坦地で「ヒノヒカリ」より10日程度早く、籾収量はやや多く、耐倒伏性が高い品種です。

「クサホナミ」 平坦地向けであり、成熟期は平坦地で「ヒノヒカリ」より5日程度遅く、籾収量は同等、耐倒伏性が高く、穂発芽しにくい品種です。

表 飼料用米品種「夢あおば」、「クサホナミ」と主食用品種「ヒノヒカリ」の比較

品種名	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	精籾重	倒伏程度	籾千粒重	わら重
	(月/日)	(月/日)	(月/日)	(cm)	(cm)	(本/m <sup>2</sup> )	(kg/10a)		g	kg/10a
夢あおば	6/24	8/23	10/14	96	21.9	306	904	極微	30.7	727
クサホナミ	6/24	9/1	10/23	93	19.3	238	863	少	27.3	729
ヒノヒカリ	6/24	8/30	10/18	97	19.6	400	843	中	26.5	846

1) 水田農業グループ(宇佐市・標高8m)場内試験の平均値(2014～2015年)

【研究の成果】

「夢あおば」と「クサホナミ」は28年産から奨励品種となり、作付面積が増加しています。

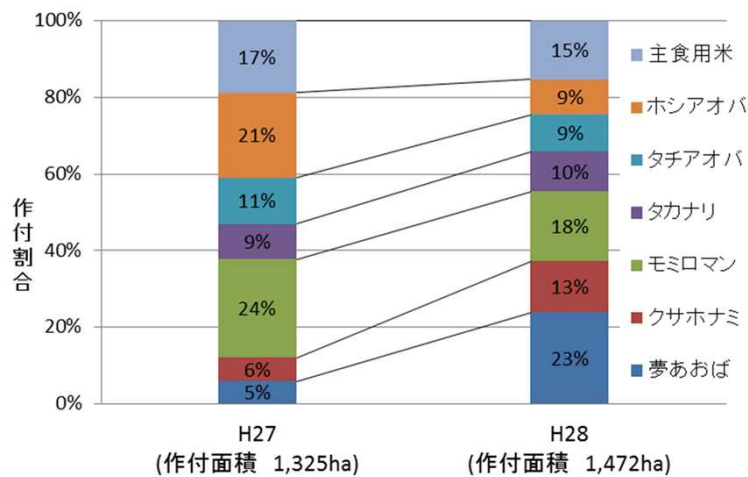


図 飼料用米品種作付面積割合の推移

【生産者の声】



27年から「夢あおば」を作付していますが、とても作りやすく、収量も多くとれます。「ヒノヒカリ」より熟期が早い品種ですが、倒伏しにくいいため、「ヒノヒカリ」よりあとに収穫することができます。  
 今後も引き続き「夢あおば」を作付予定ですが、栽植密度など検討し、さらに収量上がるよう取り組んでいきたいと思ひます。

宇佐市 (農) 畑田 都瑠良一さん(右)、大森博文さん(左)

【連絡先】

担当: 農林水産研究指導センター 農業研究部 水田農業グループ 水田農業チーム  
 TEL: 0978-37-1160  
 住所: 大分県宇佐市大字北宇佐65